

いずみのひろば

2023年6月号
日本基督教団堺教会
NO.533 教会学校



「われらに罪をおかすものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」

ルカによる福音書 23 章 34 節

友達や兄弟に嫌なことをされて、「ごめんね」と言われても、「ゆるしてあげたくない！」と思うことがありますか。また、その時には、「もういいよ」とゆるしてあげても、心の中ではいつまでも忘れられないこともあるのではないのでしょうか。私たちにあって、人をゆるすということは簡単なことではありません。

イエス様はこんなたとえ話をされました。王様が国のお金を管理していて、ある家来が1万タラントの借金をしていることがわかりました。1 タラントって、大人が20年間仕事をしてももらえるお給料のお金だそうです。1万タラントはその1万倍ということですから20万年分。とんでもない大金です。

王様は、その借金をしている家来をお城に呼んで、今すぐお金を返しなさい、と命令しました。もし返せないのなら、その家来も家族も奴隷になって、もっている財産も全て売り払ってお金を返さなさいと言いました。家来は、借金は必ず返すので待ってください、と立って頼みました。

王様は、その家来の様子を見て可哀想に思い、借金を帳消しにしてあげました。王様にとっては、この家来は、どうでもいい家来ではなく、大切な家来だったからこそ、たくさんの借金をタダにしてあげたのですね。

ゆるしてもらった家来は大喜びで家に帰りました。すると、その帰り道、100日働いてももらえない金額を貸していた友達に会いました。家来は、その友達にすぐにお金を返すように言いました。返せないかわかると、どうか待ってくださいと頼む友達を、牢屋にいれてしまいました。自分は王様から20万年分の借金をゆるしてもらったのに、友達100日分の借金をゆるしあげられないなんて、心の狭い人ですね。

その一部始終を見ていた人が、王様に言いつけました。王様はとも怒って、家来に言いました。「悪いやつだ。お前がみんなに頼んだからこそ借金を全部をゆるしてあげたのに。私がお前にしたように、お前も友達をゆるしてやるべきではなかったか」。そして王様は家来を牢屋にいれてしまいました。

この話はたとえ話で、この王様は神様、悪い家来は私たちのことです。神様は、私たちが神様のことを忘れて好き勝手にしても、神様が喜ばれないことをしよちゆうしても、私たちをゆるして愛してくださいます。神様がそうしてくださるのだから、私たちも、自分に悪いことをする人をゆるしましょう、とイエス様は教えてくださったのです。

でも、頭ではわかったとしても、自分に悪いことをする人をなかなかゆるせないのが私たちです。どうしたらいいのでしょうか。そんな私たちのために、イエス様が「われらに罪をおかすものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」という主の祈りを教えてくださって、一緒にお祈りしてくださいます。

イエス様は、十字架につけられて苦しめられている中で、自分を十字架にかけて殺そうとしている人、笑っている人、無関心な人、イエス様を裏切ってしまった弟子たちのために祈られたのです。イエス様のゆるしは、口先だけのゆるし、見せかけだけのゆるしではなく、本当のゆるしです。そんな本当のゆるしができるイエス様が、「私たちに罪を犯す人を私たちがゆるすように、私たちの罪もゆるしてください」と、私たちのために、神様にとりなして祈ってくださいます。なんと心強いことでしょう。毎日、この主の祈りを続けていきましょう。

おほなし (大井 香) 先生

